

令和二年十月十日発行  
皇學館論叢第五十三卷第三号 抜刷

研究ノート

# 戦時下における遊びと食事

—— 太平洋戦争中の人々の暮らし ——

辻  
井  
麻  
伽

## 戦時下における遊びと食事

——太平洋戦争中の人々の暮らし——

辻 井 麻 伽

### □ 要 旨

この研究は、戦争を体験された方十一名を対象に実施したインタビュー調査から作成した口述歴史資料と太平洋戦争中の食事と遊びについて記載されている先行研究を用いて、太平洋戦争中の食事と遊びの関係性を明らかにすることを目的として行われた。結果としては、遊びと食事には関係性があり、遊びと食事は暮らしそのものになっており、生きる力にもなっていたことが示唆された。また、太平洋戦争中の遊びは、他に二つの意味合いがあると考えられる。

それは、空襲や機銃掃射での攻撃など恐怖が常にあつたため、怖さを紛らわすこと、配給制により満足な食事をとれず、空腹であることが多かったため、その空腹を紛らわすことの二つである。

### □ キーワード

食事、遊び、太平洋戦争、配給制、金属供出

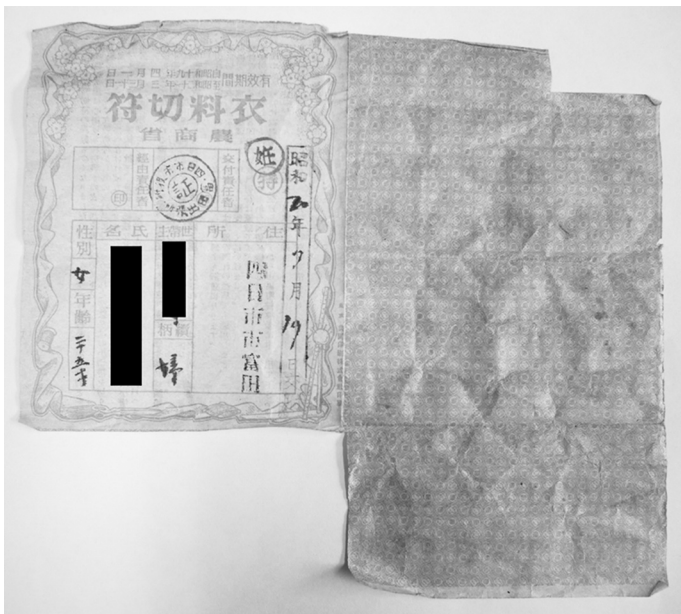


図1 1945(昭和20)年7月19日交附の衣料切符(表)  
注:個人を特定できる情報について、ぼかし加工を行った。



図2 1945(昭和20)年7月19日交附の衣料切符(裏)

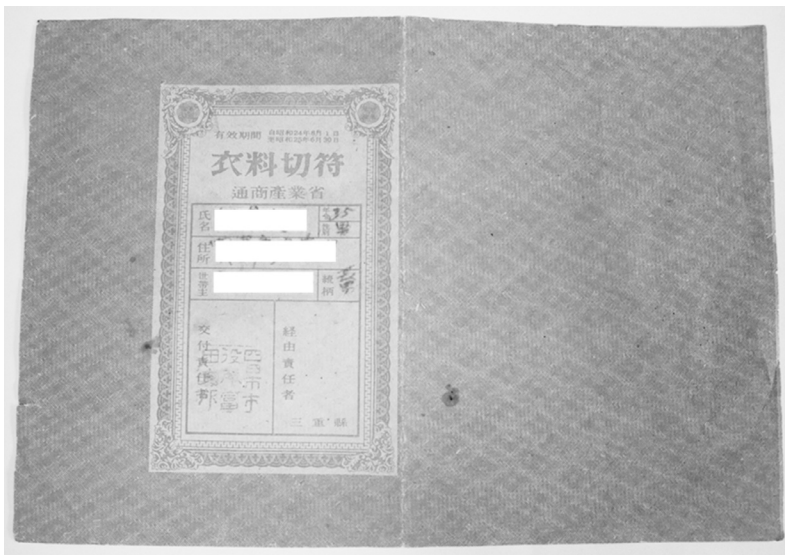


図3 戦後の医療切符（表）

注：個人を特定できる情報について、ぼかし加工を行った。

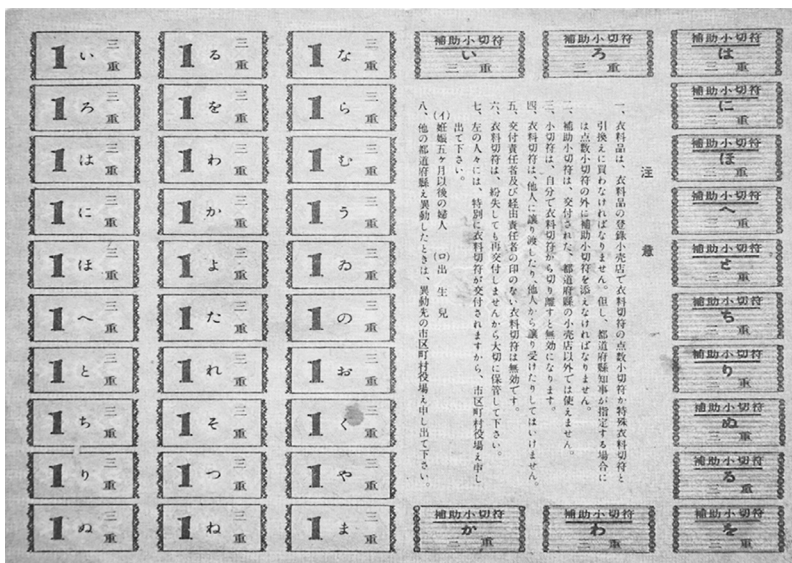


図4 戦後の医療切符（裏）

注：交附された日には明確ではないが、有効期間が昭和24年8月1日から1950（昭和）25年6月30日までと記載されているので戦後の医療切符ということが分かる。

## はじめに

太平洋戦争が終結してから約七十五年が経ち、戦争を体験した人が高齢化しているため、当時に語ることができる人が減っている。そのような中で、戦争の記憶を風化させないためにも継承することが必要であると考ええる。そこで、戦争を体験した方々にインタビュー調査を行い、記憶を口述歴史資料として残して内容を分析する。

真珠湾攻撃（一九四一（昭和十六）年十二月八日）を皮切りに始まった太平洋戦争は人々の暮らしに大きな影響を与えることになった。特に、暮らしに必要不可欠な食料と、子ども達にとって重要な遊びは戦争によって大きな影響を及ぼしていたのではないかと考える。終戦に近づくにつれて物資や資源がなくなっていく、配給制や金属供出などが行われるようになり制限が厳しくなっていく。配給制になり食べる物や量に制限がかけられた中でどのように食料をとっていたのか。加えて、玩具や道具がない中でどのような遊びをしていたのか。また、空襲や機銃掃射での攻撃があり、常に命が脅かされていた。そういった制限があり、いつ攻撃されるか分からないという恐怖の中で人々はどうのような暮らしを送っていたのか。それを検証す

るために戦時下での遊びと食料を中心にして研究していく。目的としては、太平洋戦争中の食料と遊びはどのようなものがあり、それらにはどのような特徴があるのかを明らかにすることである。

本論文では、大きく分けて三つの問題提起を分析・考察していく。第一に、どのように食料不足になったのか。第二に、その食料不足はどのように人々に影響を及ぼしたのか。第三に、戦時下ではどのような遊びをしていたのか。これらを分析・考察し、太平洋戦争中の暮らしに迫っていききたい。そして、今まであまり考察されていなかった遊びと食料の関係性を明らかにしたい。

## 1 調査方法

食料や遊びについてのエピソードが記載されている本とインタビュー調査のエピソードを用いて、太平洋戦争中の食料と遊びについて分析・考察をしていきたい。そのため、記憶を記録するために老人ホームや、太平洋戦争を後世に伝えるために活動しておられる語り部さんなどのもとに Outreach、太平洋戦争を経験した一九一八（大正七）年～一九三九（昭和十四）年生まれの男性七人、女性四人の計十一人を対象に調査を行った。得

られた話は文字に起こし口述歴史史料として作成した。調査にご協力いただいた方々の名前は個人情報なのでAさん、Bさんといったアルファベットを使用し、本論文の中でもアルファベットを使用する。

また、先行研究の収集したデータの中、主に四点のものと本研究の調査を照らし合わせて分析した。一つ目は、戦時下のエピソードを募集し、応募総数一七三六編を一冊に収めた本であり、半世紀経った今でも夏に増刷するほどの不朽のロングセラーである『戦争中の暮しの記録』である。<sup>1)</sup>二つ目は、『戦争中の暮しの記録』と同じ出版社であり、戦中と戦後の暮しの記録を募集し、それを本に収めたものである『戦中・戦後の暮しの記録』である。どちらも戦争を体験した方々のエピソードが多く記載されており、戦時中の食事に関するエピソードが記載されていた。そのため、インタビュー調査で得ることができたエピソードだけではなく、その本から戦争中の食事について書かれている五人の話を取り上げる。三つ目は、戦争中に大阪に住んでいた筆者が戦争中に体験した出来事を綴っている『戦争、貧乏を乗り越えた大阪の子供の遊び』である。戦争が激しくなった一九四五（昭和二十）年三月に筆者は石川県に疎開したが、疎開する前の一九四一（昭和十六）年から疎開するまでの遊びのエピソードが書かれていた。四つ目は、戦時下の学校生

活や遊びについて、人々のエピソードが綴られている『わたしたちの戦争体験3学校・遊び』である。その中の太平洋戦争中に福島県に住んでいた方のエピソードを加える。これら二冊では遊びに関するエピソードが記載されていたため、遊びのエピソードを取り上げる。

## 2 食事と配給制

生きていくうえで食事は人々にとって必要不可欠であるが、配給制があり食事にも制限がかけられていた戦時下での食事はどのようにしていたのか。インタビュー調査をする中で食事についての話が多く、食事は毎日の課題にもなっていた。また、『戦争中の暮しの記録』と『戦中・戦後の暮しの記録』の本でも食事に関するエピソードが多かった。そこで、まず初めに第2章で太平洋戦争中の食事についてみていくこととする。

### ・配給制の流れ

配給制が一九四〇年から導入されたが、その配給制が導入される流れを追いながら物資や資源が不足していく経緯を論じていく。一九三一（昭和六）年、満州事変が勃発、一九三七（昭和十二）年には盧溝橋事件をきっかけに日中戦争が始まり、日本は戦時体制へとなだれ込む。翌年の一九三八（昭和十三）年



には国家総動員法が制定された。国家総動員法とは、事変を含む戦時に際し「国の全力を最も有効に發揮せしむる様人的及物的資源を統制運用する」ことであると定義している。これは、戦争に際して、国力を有効に發揮できるように人・資源を政府が広範な統制を行えるよう定めた法である。<sup>(2)</sup>つまり、政府は戦争の遂行のために必要な物資や労働力を動員する権限を与えられ、国民生活のすべてが国の統制下におかれたということである。<sup>(3)</sup>以後、国家総動員法に基づいて各種の勅令が公布・施行されるようになる。主に価格等統制令、賃金統制令、国民徴用令、重要産業団体令、株式価格統制令、銀行等資金運用令である。<sup>(4)</sup>これらは、国民の自由や生活にも大きな影響を与えることになり、苦しい生活を余儀なくされることとなる。

配給は突然始まったわけではなく、まず、限られた都市で実験として実施された。「一九四〇（昭和十五年）年六月から、六大都市（東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸）で砂糖・マツチの切符配給制が実験的に実施された。これは切符の提示によつてのみ物品を購入することができるというもので、同年十一月には全国で実施された。」<sup>(5)</sup>そして、一九四一（昭和十六）年十二月八日の真珠湾攻撃により、日本は太平洋戦争へと突入する。この頃になると、切符配給制が食料だけではなく、調味料も対象となり、更に衣服までもが点数切符制の実施対象と

なっていた。<sup>(6)</sup>次第にその品目は米などの主要な食糧、その他の食料品、衣類、木炭などの日用品にも及んだ。<sup>(7)</sup>終戦に近づくにつれて、必要な物、必要な分量を手に入れる自由がなくなっていくた。

図1と図2は太平洋戦争中と戦後に実際に使われていた衣料切符である。図2の注意に「一、今年度は衣料切符の點數も少なくなりましたので皆さんは今一層衣料品の消費節約と手持品の補修活用に心掛けられた決戦下の衣生活を戦い抜いて下さい。」と記載されている。衣料切符の減少により、購入できる物に制限が生じたので手持ちの物を補修し活用するなどの工夫する必要があった。

図3、4は戦後に交附された衣料切符である。戦時中だけではなく戦後も衣料切符があり、制限はかけられていたということである。つまり、戦争が終わったからと言ってすぐに物資が供給されたわけではなく、戦後も尚、物資の不足は続いていた。インタビュー調査で聴き取った話と『戦争中の暮しの記録』、『戦中・戦後の暮しの記録』に記載されている食事に関するエピソードを元に戦時下の食事を表1にまとめた。食べ物の種類分けして、具体的な食べ物は備考欄に記載した。しかし、記憶が薄れていて、太平洋戦争中の食事をあまり思い出すが出来ない方々がいて戦時中に食べていたものを全て聞き取れたと

表 1 食べ物の種類

食べ物	県名								備考
	1	2	3	4	5	6	7	8	
ご飯	○	○	○	○			○		麦ごはん、麦ごはんにさつまいもを混ぜたご飯、お粥、雑炊、白米、麦や干うどんの細かく折ったものや、大豆などを3.4割、日によっていろいろと混ぜたご飯、大豆のカス・トウモロコシ・高粱・さつまいもを混ぜたご飯
雑穀	○								あわ、きび、はったい粉
すいとん	○	○	○			○			
パン		○	○	○					食パン(ぬかやふすまのまじった、真っ黒な、ガサガサしたパンを揚げた)、雑穀入りパン
麺	○					○	○		うどん、短麺、そうめん
団子	○								
野菜	○	○	○	○	○	○		○	さつまいも、さつまいもの茎・葉・つる・じく、かぼちゃ、とうもろこし、大根、じゃがいも、きゅうり、すいか、たけのこ、トマト、なす、えんどう、人参
果物	○								梅干し、いちご、柿
野草	○	○						○	オオバコ、ハコベ、スベリヒユ、スイバ、イタドリ、ヨモギ、ジュンサイ、土筆、アカザ、カンゾウの芽、わらび、ぜんまい
虫	○				○	○		○	いなご、蜂の子、バッタ、青大将のような蛇と似た虫、タニシ、カエル、とりあし
魚	○								アラ、エビ、煮干し、しじみ、鯉、フナ、ドジョウ
木の実	○								野イチゴ、桑の実、椎の実、ぐみの実
お菓子	○			○				○	ビスケット、乾パン、コンペイ糖、飴、煎餅
汁物	○	○	○						味噌汁、団子汁、吸い物
さとうきび	○								
心太	○								
豆	○					○			そら豆、大豆、おから、きなこ

1：三重県 2：愛知県 3：兵庫県 4：岡山県  
5：埼玉県 6：和歌山県 7：神奈川県 8：栃木県

注：県をまたいで疎開したり引越したりしていた人がいたが主に住んでいた県を挙げる  
こととする。



いうことではない。また、エピソードを追加した『戦争中の暮らしの記録』、『戦中・戦後の暮らしの記録』の本でも戦時中に食べていたものを全て記載してあるとは言い難い。食べていた物もあるかもしれないが、今回はインタビュー調査で得たエピソードと本に記載されている食べ物のみを取り上げることとする。

特徴としては三つあると考える。一つ目は、表1を見る限り、肉類がないということである。二つ目は、ご飯は何かを入れて食べていることである。三つ目は、野菜はほとんどの県で食べられているということである。これらの特徴を具体的に見ていき、戦時下の食事とはどのようなものだったのかを考察していく。

#### ・あまり食べられていなかった肉類

肉類はあまり食べられていなかった。「肉類はとつくに姿を消して、配給というと魚だった。」<sup>(8)</sup>という証言もある。では、なぜ肉類を食べる機会が少なかったのか。中には、家で豚を飼育している方がいたが、その豚を食べていたのかは明確ではない。その背景には、日米開戦以前から肉はぜいたくという觀念が広まっており、一九四〇（昭和十五）年頃から毎月二回の「肉なしデー」が設けられていた。肉が配給制に変わってからも肉の配給は月に一度であった。<sup>(9)</sup>つまり、肉の配給は少なく、家庭で肉を食べる機会が少なかったということである。戦争末期に

は輸送事情が著しく悪化していたため、月一回行われていた牛肉配給もできなくなった。<sup>(10)</sup>

三重県は松阪牛が有名であるが、太平洋戦争中はあまり肉が食べられていなかった。その理由は、松阪牛の歴史を紐解きながら詳しく見ていく。明治から大正・昭和にかけて日本の様々な場所で品評会が開かれるようになり、松阪の牛が次々に入賞するようになった。特に一九三五（昭和十）年に東京で開かれた大きな博覧会の全国肉用畜産博覧会で優勝し、これが「松阪牛」の名前を全国に広めるきっかけになったといわれている。<sup>(11)</sup>しかし、太平洋戦争が始まると牛肉が配給制になりあまり広まらなくなる。松阪市の牛肉の老舗店である牛銀では、第二次世界大戦中と戦後直後の食料不足により店は閉店休業となった。<sup>(12)</sup>同じく松阪市の牛肉の老舗店である和田金では、太平洋戦争が始まると、食肉配給の一機関となってしまった。ただ、そんな時代でも和田金の配給切符は人気を集め、高値で売買されたとのエピソードも残っている。<sup>(13)</sup>しかし、高値で売買されていたと考えられる。このように、タンパク質が豊富な肉を食べる機会が少なくなった。

では、タンパク質はどのようにしてとっていたのか。それは、魚や虫であると考えられる。魚も三、四日（時には六日）に一

度の配給であったが、月に一度の配給の肉よりは多く手に入れたことができた<sup>(14)</sup>。また、配給だけではなく、知り合いに魚をもらった、近くの川で魚を釣って食べていたというエピソードもある。インタビュー調査の中で、Dさんは、毎日のようにおかずは近くの川で魚やエビを捕っていて、それが子どもの役目であったと述べていた<sup>(15)</sup>。このエピソードから魚を捕って食べていたことが分かる。

虫に関しては、インタビュー調査をする中でも多くの人が食べており、その中でも主にイナゴが食べられていた。Aさんは、イナゴを捕ってそれを食べており、戦後もイナゴを捕りに行って食べていたと述べている<sup>(16)</sup>。Cさんは、イナゴから糞を出すために一晩おいて中身を綺麗にして、それを甘辛く炒って食べていたと述べていた<sup>(17)</sup>。Dさんもイナゴを焼いたり佃煮にしたりして食べていた<sup>(18)</sup>。EさんとIさんもイナゴは食べていたと述べていた<sup>(19)</sup>。このように、イナゴは、太平洋戦争中は人気な食べ物であったと言えるだろう。イナゴは高タンパクで低脂肪な食べ物である<sup>(20)</sup>。具体的に言うと、イナゴには、リジン・ヒスチジンが多い<sup>(21)</sup>。リジンは、小麦粉たんばく質の第一制限アミノ酸である<sup>(22)</sup>。ヒスチジンは、かつお節やかつお節だしに著量含まれるアミノ酸の一つである<sup>(23)</sup>。栄養価が高く、食べ物に適しているということであることがうかがえる。

### 戦時下における遊びと食事（辻井）

このように、肉類は手に入りにくかったため、肉よりも配給の多い魚を食べたり、タンパク質が豊富なイナゴといった虫を食べたりしていた。

#### ・不足していたお米

しかし、食べる機会が少なくなったのは肉だけではない。主食であるお米も終戦に近づくにつれて食べる機会が減っていった。それはインタビュー調査をする中でも浮かび上がってきた。Aさんは戦争が激しくなってきた頃には米作りすることすら困難だったので米は配給制になった。この頃は何でも配給制でお米も一人の量が決められているのでお米もみんなが十分に食べることができなかったと述べていた<sup>(24)</sup>。HさんとFさんは、お米は少なく、配給と言っても貰えないと述べていた<sup>(25)</sup>。Cさんは分校へ行く時もみんなご飯がなく、水の中にお米が少し入っているおかゆさんというよりも水の中にお米が入っていたと述べていた<sup>(26)</sup>。これらのエピソードから本当にお米が少なかったということが分かる。

お米を食べる機会が減っていったのはなぜか。それは、食生活の面で真っ先に国民に米をできるだけ節約して食べる「節米」が求められたためであった。一九三九（昭和十四）年には白米禁止令が出て、白米が手に入れることができなくなった<sup>(27)</sup>。一九四一（昭和十六）年四月には、米の量を平等に分配するた

め、六大都市（東京・大阪・名古屋・京都・神戸・横浜）で米の配給制が開始された。やがてこの制度は全国に広がっていき<sup>(28)</sup>。しかし、お米は配給でも不足していた。太平洋戦争が始まって三年目の一九四四（昭和十九）年になると、配給の食料は全くあてにできなくなっており、米の配給は他の主食で代用されるが多くなっていた<sup>(29)</sup>。そのため、物々交換をして配給でも手に入りにくくなったお米を手に入れていた。Cさんによると、お米は作ることができず足りないので、隣の農家に着物とか帯を持って行ってそれをお米に変えるという物々交換を何回もしていた<sup>(30)</sup>。食べ盛りの子どもが六人もいたから、戦争中からすでに配給だけでは到底食べ物は足りず、近隣の農家に着物などを持って、物々交換しに行っていた<sup>(31)</sup>。

このように、お米が不足していた中で人々は様々な工夫をして調理をしていた。例えば、ご飯に野菜など様々な食べ物を入れてかさまして食べていた。表1のご飯の備考欄に麦ごはん<sup>(32)</sup>にさつまいもを混ぜたご飯、麦や干うどんの細かく折ったものや、大豆などを三、四割、日によっていろいろと混ぜたご飯、大豆のカス・トウモロコシ・高粱・さつまいもを混ぜたご飯といったご飯に野菜などを入れている。ご飯が多いことが分かる。このことから、お米以外の食べ物の量を増やしてかさましていることがうかがえる。これは、かさましをして栄養を補うと

共に少しでもお腹を満たそうとされていると考えられる。白米統制令やお米の供出制度により、農家でも米を節約していたので、芋、南瓜、大根などを入れた雑炊やクズ米で作った水団が日常食になった<sup>(33)</sup>。また、Eさんは、初めのうちは白いご飯を食べていたけど、戦争が激しくなると、ご飯にネギとかいろんなものが入っていたと述べていた<sup>(34)</sup>。実際のエピソードからも、ご飯に何かを入れてかさましをしていたがうかがえる。かさみただけではなく、白米の代わりに玄米や麦ごはんを食べていた。例えば、Aさんは白米ではなく麦ごはんを食べていた。Bさんも、ご飯は白米ではなく玄米でそのまま玄米をふかして食べていた<sup>(35)</sup>。ご飯は麦の入った雑炊だが、丸麦を一度煮立てた後、しばらく放置してうませたものを入れているので、噛めば口の中で粒々が残り、とても食べにくい。それとふすまのいっぱい入った小麦粉の団子汁。これの繰り返しで、終戦近くの雑炊のなかには、真っ黒い、もじゃもじゃした海藻が入ったと述べている<sup>(36)</sup>。

お米がないからこそ、白米にあこがれがあったり、嫌な思い出として残っていたりしている方もいる。銀飯といって白米ばかりのご飯にあこがれた<sup>(37)</sup>。気持ち米粒が入っているお粥や雑炊を嫌というほど一生分ほど食べたから具合悪い時でもお粥も雑炊もその頃を嫌でも思い出してしまっから一切食べたくない<sup>(38)</sup>。

このように、終戦に近づくにつれてお米が不足したために

様々な工夫をしていたことが分かった。それは、物々交換をしてお米を貰う、代用食としてすいとんを食べる、ご飯に野菜などの食べ物を入れてかさましをする、白米の代わりに麦や玄米を食べることであった。そのようにして少しでも量を増やしたり代用したりして飢えをしのいでいた。

#### ・多く育てられていた野菜

肉類は食べる機会が減り、主食であるお米も終戦に近づくにつれて不足していった。そこで、野菜などを畑で育てて食べている家庭が多かった。それはインタビュ調査の中でもうかがえる。Aさんは、食料はみんなそれぞれの家の近くの庭や近くの空いた土地で耕して麦を作ったり、野菜を作ったりしていた。川沿いの土地があるとそこを拓いてそこで野菜を作っていたと述べている。<sup>(39)</sup> Fさん、Hさん、Iさん、Jさんは野菜、麦、小麦、きび、あわなどを畑で作っていた。<sup>(40)</sup> Bさんは畑で野菜や果物を育てていたと述べていた。<sup>(41)</sup> Cさんは叔父が河原を開墾して麦や野菜など様々な食べ物を作っていた。<sup>(42)</sup> Dさんは川越で二ヶ月くらい疎開して、塩浜の方で海軍燃料廠が建てた住宅が一般に貸し出されてそこが借りることができてそこ庭でじゃがいもやさつまいもを結構作っていたと述べていた。<sup>(43)</sup>

このように、肉類やお米があまり手に入ることができず、配給だけでも足りないため、自分たちで野菜や小麦を畑や庭で

作って食料を育てていたといった工夫をしていた。しかし、家の庭や借りた土地だけではなく、様々な場所で食料を育てていたというエピソードもある。家と道路の間の側溝や歩道<sup>(44)</sup>、学校の運動場でも耕していた。<sup>(45)</sup> 側溝や歩道、学校の運動場にまでも耕していたということは、耕すことが出来る場所はあらゆる所で耕していたと言える。太平洋戦争中は工夫しながら暮らしていたということが言えるのではないだろうか。

#### ・食料不足が及ぼす影響

これまで肉類、お米、野菜の三つを中心に分析、考察をしてきたが、共通することは食料が不足しているということである。肉類は食べる機会が減り、お米は配給制になっても十分に食べることが出来なかった。そこで、野菜を自家栽培し、食料を確保していた。太平洋戦争中は終戦に近づくにつれて食料不足が深刻化していき、満足な食生活を送っているとは言えなかった。それは、インタビュ調査をする中でも伺える。Dさんは、とにかく味はどうでも良く、食べてお腹が膨れたら良いと述べていた。<sup>(46)</sup> 味よりもお腹が満腹になったら良いということは、食べることにへの満足が得ることができさえすれば良いということである。他にも、食物を嚥下するのは勿体なく、長い間、口の中で噛み残していた。そしていつの間にか一旦胃袋に収まったものが逆流するようになり、牛のように反芻の能力が具わったと

いうエピソードもあった。<sup>(47)</sup> 反芻とは一度、飲みこんだ食べ物を再び口へ戻して噛むことである。<sup>(48)</sup> 反芻してしまふほど食料が不足していることがうかがえる。口に何か物を含んでいて噛むという行為をすることだけでもしていたかったと捉えられる。Eさんもすいとんといつても汁に粉で作った団子が入っているだけで、食べればいい方だったと述べていた。<sup>(49)</sup> Aさんは食べ物なんて限られた中でしか食べることができなかった。<sup>(50)</sup> Cさんは太平洋戦争中の食事を思い出さず、哀れでしたと述べていた。<sup>(51)</sup> 辛くひもじい思いをしていたことが分かる。満足した食生活がおかれているとは言えないことが分かる。食料不足が深刻であったため、毎日生きていくためには常に食料が最優先であり、毎日の課題であったと考えられる。しかし、中には不自由なく食べていたという方もいた。GさんとHさんはあまり不自由せず食べていた。<sup>(52)</sup> 不自由なく食べていた方もいるが、多くの人は満足な食生活を送れてはいなかった。

食料不足になった理由として、大きく分けて四つあると考えられる。一つ目は、石油や鉱物などは輸入が必要だが、敵国が輸入ルートを断ち、モノが入ってこなかったため、モノが足りず、配給制を敷くことになったが、遅配や欠配も続出し、庶民は配給だけでは生きることができなくなった。<sup>(53)</sup> つまり、敗戦の色が濃くなるにつれて輸入するルートが無くなり、物資を輸入でき

ず、日本はモノの不足に追い込まれたということであると考えられる。二つ目は、物資を生産する労働力が戦争に駆り出されてしまっているためであると考える。そのため、生産が追い付かず、需要が供給を下回ってしまったと考えられる。三つ目は、空襲により、食料品を製造している所が焼かれてしまったためであると考える。一九四五（昭和二十）年五月、この頃、味噌、醤油、塩、すべて配給がなかった。製造元が焼けたり、輸送が円滑にいかなかったそうだ。<sup>(54)</sup> 四つ目は、食料は軍に支給されていたためであると考えられる。太平洋戦争中には、軍事優先のもので耐乏生活が強いられ、食料の供給にも厳しいものがあつた。それが国民に大きく影響を及ぼしたか分からないが少なくともこの四つの理由により、影響が長くなったことは言えると考えられる。

では、食料不足になって人々に及ぼした影響はどうであったのか。子どもを対象に見ると、食料不足が与える影響は子ども達の身体にも表れていた。六十八歳の男女別で行った、戦争最後となった一九三九（昭和十四）年度検査と戦後最初の検査である一九四八（昭和二十三）年の身長を比較すると、男女共に全年齢層で一九四八（昭和二十三）年の方が小さくなっている。<sup>(56)</sup> つまり、身長が縮んだということである。平均身長の低下現象は多少の差はあるが、男女を問わず、全年齢層で起きてい

た。また、戦時下の子ども達の摂取カロリーは現代より約半分少なかった。<sup>(57)</sup> これら二つの要素からもそれほど満足した食事が出来ていなかったことが分かる。このことから、食料不足が子ども達に及ぼした影響は大きいと言える。

### 3 遊び

太平洋戦争中は食料が不足しており、ひもじく苦しい暮らしをしていたことを2の食事と配給制で論じてきた。しかし、苦しいだけではなく、楽しいと思う瞬間はあったのではないかと考えられる。その一つに遊びが挙げられると捉える。では、太平洋戦争中はどのような遊びをしていたのか。ここでは、遊びについて論じていく。

遊びも調査方法で述べたようにインタビュー調査を行った。調査協力者は一人であった。しかし、中には遊びを思い出すことができなかったり、あまり遊ばなかったりした人もいた。また、『戦争、貧乏を乗り越えた大阪の子供の遊び』、『わたしたちの戦争体験3学校・遊び』の二冊の本からも遊びのエピソードを取り上げるが、これらの本も遊んでいたこと全てが記載されているとは限らない。そのため、多少のばらつきがある。

#### 戦時下における遊びと食事（辻井）

#### ・太平洋戦争中の遊び

1の調査方法と同様にインタビュー調査で聴き取った話を元に戦時下の食事を表2にまとめた。

表2の遊びの分類は、菅・田畑の子どもの遊びの分類を基に作成したものである。<sup>(58)</sup> 表からも見て取れるように太平洋戦争中の遊びには様々な種類があり、戦争中ならではの遊びも見られる。

#### ・戦時下ならではの遊び

遊びは戦争の影響を受けており、それが分かるのは戦時下ならではの遊びである。戦争ごっこ（別名：軍艦遊び）、水雷艦長、ぶっつけ鬼、愛国イロハかるたである。Dさんによると、戦争ごっことは、軍艦、飛行機など三種類に分かれて鬼ごっこに兼ねている遊びであると述べていた。<sup>(59)</sup> 愛国イロハかるたは、太平洋戦争が激化していた一九四三（昭和十八）年、将来を担う小学生に向けて作られたかるたである。このかるたは、「いろは」四十七句の読み札と絵札で構成されており、どれも地域での生活や学校教育、勤労奉仕、少年兵への志願や前線の兵士の慰問など、戦時中の国民生活に関わる句となっている。<sup>(60)</sup> かるたでも戦争に影響されている。ぶっつけ鬼とは、かくれんぼに似た遊びでかくれた物が見つかる前に、鬼にまるめた縄をぶっつけると、もう一度初めからやり直しになる。<sup>(61)</sup> 鬼を敵と捉え、遊んで

表2 遊びの種類

遊び		県名						備考		
		1	2	3	4	5	6			
自然遊び	動植物を活用した遊び	採取	○	○					木の実採り(野イチゴ、桑の実)、きのこ採り、虫取り(カエル、蝶々、セミ)、魚釣り	
	地形を活用した遊び	石	○	○						石蹴り、石投げ
		木登り	○							
		竹のぼり		○						
		土手のぼり	○							
		池で泳ぐ		○						
		歩く	○							
		雪合戦	○							
		つららをかじる	○							
		かけっこ	○							
		けんけんぱ	○			○				
はじめの一步	○									
非自然遊び	施設・道具を必要とする遊び	カード類	○	○						イロハかるた、トランプ、百人一首、花札
		缶	○	○						缶ボックリ、缶蹴り
		読書	○							絵本、文学全集、偉人伝、雑誌
		観劇・鑑賞	○	○	○				○	サーカス観劇、映画鑑賞、紙芝居
		双六	○	○						
		釘刺し	○							
		あやとり	○							
		ばっかん	○							
		なわとび	○							
		ゴム飛び	○							
		お手玉	○	○						
		ガラス玉	○							
		おはじき	○	○						
		編み物	○							
		ボール	○							
		コマ	○	○					○	
		紙鉄砲		○						
		竹馬	○	○					○	
		ブランコ				○				
	お絵描き				○					
人との遊び	ごっこ遊び	○	○	○	○	○	○		戦争ごっこ、チャンバラごっこ、電車ごっこ、水雷艦長、探偵ごっこ、鬼ごっこ	
	ぶっつけ鬼			○						
	陣地取り	○								
	騎馬戦		○							

※1：三重県 2：愛知県 3：福島県 4：大阪府 5：神奈川県 6：兵庫県

出典：菅・田畑(1985)を参考に作成

注：県をまたいで疎開したり引越したりしていた人がいたが主に住んでいた県を挙げることとする。



いたのではないかと考えられる。水雷艦長とは、軍艦の特性を鬼ごっこのようなルールに当てはめた遊びである。<sup>(62)</sup>この遊びも軍艦を基にした遊びなので戦争の影響を受けていると捉えられる。その中でもとりわけ戦争ごっこや騎馬戦といった戦争の意欲を掻き立てるような遊びが多かったように見受けられる。戦前から戦時中にかけて、戦争ごっこは戦争教育の一環として位置づけられ、小学校や国民学校の重要なカリキュラムとして奨励されていた。この戦争ごっこを通じて児童に戦争を疑似体験させ、戦局をより深く認識させることが目的とされていた。子どもや教育にまで戦争の影響を大きく受けていることが分かる。

このように遊びの内容そのものが戦争の意欲を駆り立てていと捉える。遊びに関しても戦争が及ぼす影響が大きかったと言える。子どもたちの想像力は戦争と結びついている。戦争ごっこをすることによって、戦争を子どもたちなりに捉え直して再経験している。<sup>(64)</sup>世の中の風潮が遊びに反映していることがうかがえる。

#### ・遊び道具がなかった

太平洋戦争中は遊び道具があまりなかった。インタビュー調査の中でも道具はなかったという話が多くでてきた。Aさんは今のよう遊び道具も全くないので自然の中で遊んでいて、道具を使わない遊びが主だったと述べていた。<sup>(65)</sup>Bさんも遊び道具

はなかったと述べている。<sup>(66)</sup>Cさんもおもちゃはなく、自分らで作らないとなかったと述べていた。<sup>(67)</sup>Eさんもおもちゃを作る資材が全部戦争の方に流れ込み、戦争中は遊ぶための道具がなかった。遊ぶといっても手作りで、例えば、竹の筒で紙を詰め込んで中へ入れて空気が圧縮されてスポーンって飛んでいく紙鉄砲で遊んでいたと述べていた。<sup>(68)</sup>このように、遊び道具がなかったため、紙鉄砲など自分たちで手作りして遊んだり、自然の中で遊んだりしていた。

遊び道具があまりなかった背景には金属供出があると考えられる。金属やゴムは統制を受けるようになり、金属供出が実施されるようになる。戦争の武器を作るために金属類は供出された。アルミニウム・アルマイト玩具の製造が禁止され、玩具の材料は木・紙・布帛・竹・土などに限られるようになった。<sup>(69)</sup>そのため、玩具は少なく、手作りで作るようになっていったと捉えられる。インタビュー調査をする中でも金属を供出した話が出てきた。Aさんは、金属類はみんな供出と言って国へ出さなくてはいいなく、お寺の鐘や家の窯や鍋も供出して家には金属類はなかった。金属類はほんとに小さいものから全て出さなくてはいいなかったから母親の指輪も出したという話を聞いた覚えがある。と述べていた。<sup>(70)</sup>日本では鉄が不足して、家庭には最低限のものを残して、汁をつくる鍋、ごはんを炊く釜、火鉢などの金属が

押収され、お寺や神社の鐘も持っていかれて、近所の橋の鉄の欄干がなくなった記憶がある。<sup>(71)</sup>一九四三年（昭和十八）には企業中心であった金属回収も、一九四四（昭和十九）年には再び

「決戦回収」として家庭にも呼びかけられた。鉄銅以外の各種金属についても一九四二（昭和十七）年十二月にはニッケル貨の回収が実施され、その際に引換えたアルミ貨も航空機の増産を背景に一九四五（昭和二十）年一月には回収されることとなった。<sup>(72)</sup>つまり、金属類は戦争のために供出されていた。おもちゃを作る材料が不足しておもちゃがあまり出回っていなかったため、自分で作って遊ぶなどして工夫しながら遊んでいた。

#### ・集団遊び

遊びの特徴を見てきたが、次にその遊びは誰としていたのかに注目してみる。すると、多くの人は複数人で遊んでいることが分かった。インタビュー調査の中で遊びは誰としていたかと聞くと、Aさんは兄弟や周りの子と遊んでいて、特に兄弟と遊ぶことが多かったと述べている。<sup>(73)</sup>Bさんは学校友達と遊んでいた。<sup>(74)</sup>Cさんは近所の人達と遊んでいた。<sup>(75)</sup>Dさんは二十人前後が集まって紙芝居を聞いていた。<sup>(76)</sup>Eさんは兄弟や友達同士で遊んでいた。<sup>(77)</sup>このように、インタビュー調査の中でも一人で遊ぶよりは誰かと遊んでいることが多かった。戦時中の遊びは今の

遊びとは違った特徴があり、その一つに遊びの中で仲間意識が強く働いていた。<sup>(78)</sup>つまり、戦時下での遊びは集団で遊ぶことが多かったことが特徴の一つとして挙げられる。

#### ・遊びの意味合い

遊びの特徴について論じてきたが、そもそも遊ぶということとは人々にとつて純粹に楽しく、幸せなひと時であったと考える。しかし、太平洋戦争中の遊びは他の意味合いもあったのではないかと考える。それには大きく分けて二つある。

一つ目は怖さを紛らわす部分である。戦争中は空襲や機関銃などがあり常に命が脅かされており、恐怖とも隣り合わせにあったと考えられる。太平洋戦争中は空襲があったり敵機が低空飛行で攻撃してきたりと命の危機や恐怖と隣り合わせであった。Eさんは、夜中に空襲があつて起こされて防空壕に入るといふ生活が続いて夜寝ることができないことが辛く、精神的にまいった。疎開した先では、機銃掃射があつて、どこから飛んでくるのか分からないのが怖かったと述べている。<sup>(79)</sup>いづどこから敵機が飛んでくるのか分からないという状況で常に恐怖があつた。Aさんは戦争で今も覚えているのは毎日の生活で、「空襲〜」って言うのと逃げて親戚の小屋の中に穴を掘つてその中（防空壕）へ逃げ込んだ覚えがあると述べていた。<sup>(80)</sup>小さかった頃のことを覚えているほど記憶に強く残っているということだ

ある。Cさんは機銃掃射に遭遇して防空壕へ入って、のぞいたら怖いのでのぞくことはしなかった。操縦している敵の顔が見えた。それで、警戒警報が鳴って大急ぎで防空頭巾を被って溝に入って目立たないように近くにある草を被せていた。怖かった。<sup>(8)</sup>命が失われてしまうかもしれないという恐怖があったことがうかがえる。このように、太平洋戦争中は空襲や機銃掃射があり常に恐怖と隣り合わせであった。しかし、遊んでいる間はそういった恐怖と向き合わなくて済むのではないか。恐怖を忘れていられると考えられる。

二つ目は空腹を紛らわす部分である。十分な食事がとれず、空腹であることが多かったため、遊ぶことで空腹を紛らわせていたと考える。遊ぶことで自然と空腹を感じるものがなくなっていたのではないだろうか。これら二つのことを子ども達は意識していなかったと考えるが、遊びは恐怖や空腹から逃れる役割を担っていたのではないだろうか。戦争という怖く苦しい中でも遊ぶことで人々は楽しいひと時を見つけていた。そのため、戦時下での遊びというのは人々にとってある意味一つの生きがいであったと考えられる。

#### 4 食事と遊びの関係と暮らしの結びつき

これまで太平洋戦争中の食事と遊びについてインタビュー調査と戦争中のエピソードが記載されている本を基に論じてきた。その中で、食事と遊びは関係性があったと考える。理由は、遊びの中で野草採り、魚とり、虫取りがあるが、そのとつたものを食べて過ごしていた方がいたためであった。Aさんは木の実を採ってみたりその辺に生えている食べることができるとつとびついてそれをとって食べていたりしていた。また、冬になると氷柱が垂れ下がっていてそれをかじっていた。おやつがなかったのでも野イチゴや桑の実やスイバを採りに行ってしゃぶっていた。<sup>(9)</sup>Bさんは川で魚を捕ったり山へ行つてきのこを採ったりしていた。遊びというよりもそういう暮らしをしていた。<sup>(10)</sup>このようなエピソードから遊びが直接的に食事に繋がっていたことがうかがえる。食料があまりなかったため、食料を調達することが遊びになっていたと捉える。

また、食料不足で空腹な状態が多かった。遊びの意味合いでも述べたように、そういった空腹状態が多かった中で遊びをするという楽しい時間を過ごすことで遊びに夢中になって空腹であることを忘れることができたと考えられる。このことから食

事と遊びが繋がっていることがうかがえると考える。

次に、遊びが直接暮らしに関わっていたことも挙げられる。Cさんによると、遊び兼実用的なのは編み物で、手袋、帽子、襟巻、靴下、腹巻を作っていた。<sup>(84)</sup>遊びと暮らしは結びついており、遊びは暮らしそのものになっていったと考える。食事に関しては、エピソードがたくさんあり、インタビュー調査の中でも食事のエピソードは多かった。そのため、食事は暮らしのほとんどを占めていたと考える。

これらのことから、食事と遊びは暮らしそのものであったと考えられる。そして、それらは生きる力になっていたのでないだろうか。食事と遊びに繋がりがあつたということが太平洋戦争中の特徴の一つであつたと言えると考えると考えられる。

#### おわりに

本論文では、太平洋戦争中の食事と遊びを中心に人々の暮らしを論じてきた。食事では、配給制が敷かれるようになり、食べ物や量が制限されていった。特に肉類やお米は食べる機会が少なかったため、お米に野菜などを入れてかまましをしていた。野菜は主に自家栽培して食料を確保していた。このように、食料不足に置かれていた太平洋戦争中は多くの工夫をして飢えを

しのいでいた。食料不足になった理由としては、敵の攻撃によって製造元が焼かれ、労働力が戦地に駆り出され、食料は軍が優先であつたという四つが挙げられる。その食料不足が人々に与えた影響として、身長が縮む、摂取カロリーが現代よりも約半分少なかったということが子どもに顕著に表れた。

一方、遊びでは、三つの特徴があることが示唆される。それは戦争の意識を高めるような遊び、手作りで作って遊ぶ遊び、友達や兄弟と遊ぶ集団遊びである。遊びは人々にとって楽しく幸せなひと時であつたと考えるが他の意味合いもあつたと考える。空襲という恐怖を紛らわすことと、食料不足で満足な食事をとれないので空腹感を紛らわすことである。遊びという楽しいひと時を過ごすということが恐怖や空腹感を忘れさせる要因であつたと考えられる。更に、遊びをすることでその人なりの喜びを見つけ、生きがいの一つになつていたと考える。

そして、食事と遊びには関係性があることが分かつた。第一に、魚や野草などをとるといふ遊びが食料を調達していることに繋がっており、直接的に食事に結びついていた。第二に、食料不足で空腹状態が多かつた中で遊びをすることは空腹をあまり感じずにいられたということである。このことから遊びは食事に繋がっていると考える。また、遊びが直接暮らしに関わつていたことが分かつた。遊びで編み物をすることで暮

らしていく上で必要となる物に繋がっていたためである。そして、遊びと食事は暮らしそのものになっており生きる力にもなっていたと言えると思われる。

食事と遊びを中心に太平洋戦争中の暮らしに迫ってきた。その中で、一人ひとりに暮らしがあり、懸命に生きていたことが食事と遊びについて論じる中で明確になったと考える。その暮らしの中に戦争がきて、人々に影響を与えたのではないだろうか。

最後に、本論文では戦時中の食事と遊びの関係を考察してきたが、「戦争」は一つの危機であり、二〇二〇年に新型コロナウイルスが世界中を震撼させている。その影響でマスクなどの物資が不足している。そのため、マスクは一家族につき一箱などの制限をかけている店があったり、マスクをハンカチなどで手作りするように呼びかけたりしている。また、三重県多気町にあるシャープ社などの民間企業はマスクを製造し始めている。幸いにも現状は食不足にはないが、教育施設、図書館、室内遊び場などは利用できなくなっている。そのため、「遊び」の工夫も追い求められているのではないかと考える。どの危機感にしても、食事と遊びは考慮していかなければならないと考える。

課題としては、食事に関しては、戦中よりも戦後直後の方が

## 戦時下における遊びと食事（辻井）

（食料不足に陥っていたということが食事についての研究をする中でも分かっていた。そのため、戦後直後の食事についても話を聞いて研究すべきであると考え。遊びに関しては、男女によつて遊びの種類が違っていたことが考えられることから女性のエピソードも多く入れる必要があると考え。そのため、男女で比較することも必要なのではないかと捉える。

### 資料1 インタビュー調査

Aさん

（調査者…以後、調）太平洋戦争中はどのような遊びをしていましたか。

A…当時は産めよ増やせよの時代で兄弟がたくさんおつて、兄弟で遊ぶことがほとんどで、他の子たちと遊ぶ時は鬼ごっことか、それから土手のほりかな。土手を駆け上がる。これは多度の上げ馬というのがあって崖を馬に乗って走りあがる、そのまねをしたのかな。お尻を叩いて土手の上をぼんぼんぼんと上がっていく。まあ、それぐらいで、あとは夏になると近くの池で養魚場があって、おじの家が養魚場をしとつたのでね、そこで泳ぐというぐらいで、今のようにに遊び道具も全くないし、自然の中で遊ぶと。木の実に採ってみたいとかね。それから、花を採ったりその辺に生

えとる食べるのできるものにとびついてそれをとって食べるといふようなことを遊びにしとったかな。あとは、はつきり覚えてないけど、そのあたりをちよつと見に行くというのも遊びの一つやったかな。行動範囲がそんなに広くないからそこらちよびつと出るとかね、そういうのが楽しみやったかな。その程度が遊びと言えるね。

調…兄弟は何人いましたか。

A…兄弟は七人。年子四人。小学校一年生、二年生、三年生、四年生と続く年子やな。戦争の終わりのころには私が小学校一年生に入る前の年、兄が一年、二年、一番上の姉が三年、弟も下にいると。これは産めよ増やせよという時代やったでね、兄弟が皆、どこの家庭も多かった。

調…産めよ増やせよとは。

A…子どもをたくさん産んでいく。この悲しいかな。戦争でほとんど人がなくなつてくのでそういうような時代であつたと言えるわけであるね

調…国の政策みたいなことですか。

A…そうそう。国の政策でもあつたわけやな。中国のように一人っ子とかそのようなのではなくて、その当時はたくさんの子どもを産むのが国の施策でもあつたわけ。だから、年子四人。毎年、おぎゃあおぎゃあおぎゃああとこう生まれて

いったわけやけども、そんな家庭は結構今とは違つてあつたわけ。

調…その兄弟と遊ぶことが多かったということですか。

A…そうやな。冬になるとつららが垂れ下がつてそれをかじつたりするのも一つの遊びやったな。多度はちよつと寒い、その時は結構寒くて雪もあつたでね。それと、お正月が来ると楽しくて楽しくて、今以上にはるかに楽しかった。駆けずり回つて、言うたらかけつこかな。そのあたりを走り回るのが楽しかったな。まあ、外へ出て遊べるというのがとても楽しかった。それもほんとに遊びの一つやろね。

調…戦争中は疎開をしていましたか。

A…昭和十四年九月十五日に津で生まれた。それから、父親の仕事の関係で四日市、これは海の近くの海軍橋という橋があつた。その海軍の橋やね。海軍が使つとたから海軍橋言うたんかな。その海軍橋の近くの大きな家を借りてそこで住んどつた。ところが、戦争が激しくなつてきたので母親の実家の多度へ疎開した。その後、津も四日市も空襲にあつて丸焼けになつとるけども、その時四日市におつたらそれこそ焼け出されて大変なことに、死んどつたかもしれなかつた。そして、多度に疎開して、そこでの遊びを話したところ。疎開先の多度での遊びは遊園地とかそんなこと

は全くできないのでね。自分らの住んどるそのあたりが遊びの場であつたわけ。

調…道具とかはありましたか。

A…遊び道具はない。

調…カルタはありましたか。

A…カルタはあつたような覚えはないな。

調…双六とかありませんでしたか。

A…あつたかもしれやんけどはつきりとは覚えてない。小学校一年生に入った頃は間違ひなくカルタとか、パンパン。カードを地べたに叩いてひっくり返す。その取り合いとかね。それから、釘刺しするとかね。

調…釘刺しはどのような遊びですか。

A…釘を刺して線を書いていく。釘もなかつたでな。釘とかいうのは国が全て金属類はみんな供出して言うてね、国へ出さなあかんの。だから、お寺の鐘も供出して金属が足らんもんで出した。家の窯も鍋とかそんなもみんな供出して家にはそんなもん（金属類）はなかつたな。だから、金属類は戦争の頃もどんどん供出すことになつて周りには（金属類）はなかつた。だから、遊び道具で釘もたぶんなかつたと思う。

調…どんどん金属類がなくなつていったのですか。

A…そう。金属類はほんとに小さいものからみんな出さなあかんかつたから、指輪も出したつていう母親なんかも指輪とかね、そんなものみんな出さなあかんかつたつていう話を聞いた覚えがある。

調…本はありましたか。雑誌とか。『少年倶楽部』とかそういう雑誌がありましたか。

A…雑誌なんか、そんなにお金にゆとりがなかつたと思うよ。多少それはあつたかも分らんけど、姉なんかはそういう遊びをしたかもしれないけど、私の場合はそんな覚えはあまりないな。体を動かしとること、即それが遊びやつたと思う。けんけんしたり、ちよんちよんちよんと歩いたり、はじめの一步とか、それも戦争中であつたと思う。遊びといえは、外へ出て、あつ、石けりもあつたな。それから、先にも言うたけど鬼ごっこ。道具を使わない遊びが主やつたな。せやな、石けりしたな。陣地取り、特に陣地取りやな。

調…陣地取りとは何ですか。

A…陣地をとつて広げていく。自分の陣地を広げるといふ、戦争の最中やで領地を広げるのに繋がつとつたかんかな。

調…そういう遊びも大体兄弟で遊んでいたんですか。

A…そう。周りの子もその辺はおつたと思う。特に兄弟が負け



ると悔しくて仕方なかった覚えがある。そういう戦争に駆り立てることに繋がるともあるかもしれない。隣組と喧嘩したり隣の村と喧嘩したりとかいうのを聞いたことがある。ああ、せやな。それからおやつがなかったんでね、近くにある野イチゴとか桑の実とかそういうものも取りに行った覚えあるな。それも一つの遊びやったかな。

調…それは近くにあったんですか。

A…そうそう。野原に生えとるイチゴな。小さいイチゴ。それを見つけるのが楽しい遊びの一つでもあった。スイバも、これも野草やけども、そういうものもしゃぶってみたりとか、それがおやつにもなっとったわけやな。

調…スイバは草ですか。

A…草。

調…ということは道具を使わない遊びが主ということですか。

A…そう。道具は使うような、遊び道具というののもう周りもあらへんだしね。もう鉄類は皆、供出せなあかんで、皆引っこ抜かれとるし。

調…ごっこ遊びとかはありましたか。戦争ごっことかお医者さんごっこ遊びとか、そういう遊びはしていましたか。

A…それもあつたやろうとは思うけどな。ごっこ遊びはやつとる。ままごともやつた覚えある。むしろひいて、今でいう

敷物、そのむしろの上へ座っておままごごと、ご飯とか葉っぱを採ってきたりしながらな。

調…でも、道具はないんですよね。

A…道具はない。だから、何もかも自然のもの。むしろはほとんど使えやんだけどな。大事なもので（あつたから）。だから、地べたや草むらで座り込んで今のようなままごごととしたという覚えがある。葉っぱを使ってね、葉っぱをお皿にしたりとか。箸はもちろんその辺の木を折って箸の代わりにしたりとかね。そうやってみると、自然の中で自分たちで工夫してそれ以外にもいろんな遊びをしとったような覚えはある。近くにあんまり木がなかったで木登りはもつとあとからしたんやけども、木があればそこに登りたいと思つたことはあるでどつかで木登りなんかもやつとつたと思ふな。あつ、虫取り。セミなんかもおつたと思ふで、夏なんかセミとか、それから蝶々捕りとかカエルを捕つてきたりとかそういうのも遊びの一つやつたかもしれやん。もちろん、魚捕りもしとつたで。小さな魚を捕ることも（しっていた）。

調…次は遊びではなくて食べていたものなんですか。

A…もうこれ話しとるのは多度の生活を中心に話しとるんやけども、食べ物というのは今のようなご飯なんて到底食べら

れないし、麦ごはんとかね。お米はあったとしてもちよこつとやな。それから、お腹一杯となるとさつまいも。これもそんなにたくさんあったわけではなくて、まあ、多かつたのはさつまいもやな。特に戦時下の戦争が激しくなってきた頃にはもう米作りすることすら困難やったっていうことで米は配給制。この頃は配給制、何でも配給制でお米も一人どんだけって決められとる。そのお米もそんなみんなが十分に食べれなかつたでね。配給にしろ、塩にしろ、砂糖にしろ、何でも全部切符制や。一定以上は手に入らんだん。もう食料は皆な。いわゆる配給制がひかれとつたわけ。着るもんもせやで。服とかも全部。パンツも。だから、服とか着るもの皆。制限があつたん。それ以上貰えやん。だから、食べ物なんて、言うたように限られた中でこそ食べられなかつたで、戦争が激しくなるとだんだんだんその（配給する）量が減つてつたわけ。だから、食べ物はどうするかという自分とこで食べるもの探しなさいっていうことや。子どもの頃覚えとんのは、草を採りに行った。食べられる草。ハコベとか。

調…オオバコとか？

A…うん。それから、スベリヒユ。多度は水郷地帯の近くやつたでね、今は高級なんやけども特にスベリヒユとかそんな

戦時下における遊びと食事（辻井）

んを採りに行った覚えはある。だから、野草も食料の一つになつとつたわけやな。今は、ハコベにしてもスベリヒユにしてもスイバ、イタドリ。イタドリっていうて酸っぱいやつ。こんなんも食料の一つにしとつたでな。食べた覚えはあるよ。

調…どうやって食べていたんですか。焼いて食べるとか？

A…煮ていた。

調…イナゴとかも食べていたんですか。

A…もちろんイナゴは食べた。これはみんな集めに行つて戦争終わつてからもずっと続いとつた。戦争中もイナゴを捕りに畑や田んぼやら走り歩いとつたな。

調…カエルは？

A…カエルも捕つた。それを食べることはなかつたけども。

調…すいとんは食べてましたか。

A…小麦粉で作つたものやな。食料はみんなそれぞれの家で近くの庭はもちろん、近くの空いた土地で耕して麦を作つたりとか、野菜作つたりはしとつたな。肥しはというと人糞。声桶に積んでそれ（人糞）をいっぱい入れて畑にまきに行つた覚えがある。父親の後ろについて近くで畑しとつてその畑に人糞をくみ取つて持つてつた。だから、人糞は肥しやわな。人間のうんこやおしっこ、そういうものを貯めてあ

るところ、こえたんご（三重県四日市市の方言で肥担桶）から桶に声桶に入れて、畑に運んでいく。

だから、食べ物それぞれの家でみんな何らか工夫して土地を耕したり荒地や河原沿いの空き地やそういうところへみんなの家庭が作って、子どもはそこへついていくんやけど、何らかの形でその（畑）手伝いをしとったな。年に合った手伝いをして、食べることを続けることができたといいことかな。

調…畑は周りに結構あったんですか。

A…よその土地やけども、空いとるところも（拓いて何かを育てていた）。川沿いの土地があるとそこを拓いてそこで野菜を作っていたわけ。だから、私の父親はそういうところへ行つて鋤で土をおこしてどんどん広げていった。

調…どんな野菜を育ててましたか。

A…いろんなものしとったな。麦はもちろん、かぼちゃとか、そういうものをどんどん広げとったな。とうもろこしもしとったな。それと、さとうきび。さとうきびもしとった。小麦ができるとうどん屋さん、正麵所があつて、そこでうどんを作つてもらふこともしとったな。

調…ということはうどんも食べていたということですか。

A…そうそう。小麦粉ですいとん作つたり、時としてはうどん

を食べる。うどんなんて高級だからそう簡単には食べられなかつた。簡単なのはすいとんやな。

調…すいとんの方が一番（食べるのが）多かつたってことですか。

A…そうやな。すいとんは小麦粉をこねて（鍋に）放り込むだけやで。

調…すいとんは毎日のように食べてましたか。

A…すいとんは毎日のようにあつたかな。ご飯はそんなに（食べてない）、米がないから。兄弟が多いで食べる量が多くなるし、それを食料を十分補うことができなかつたからすいとんとかさつまいもとかを（作つて食べていた）。だから、もちろんさつまいもは作つて食べとつたよ。さつまいもは主力かな。

調…さつまいもはふかして（食べていたんですか）？

A…ふかして食べたたり焼いて食べたたり、煮て食べたたり、ご飯と麦とその中にさつまいもを細かく切つて入れたたり、すいとんだけやなしに、さつまいももそんな（すいとん）に入れて（食べていた）。

調…さつまいもの茎も食べましたか。

A…そうそう。もちろん、茎も葉っぱも食べたよ。美味しかったよ。

調…莖とかは煮ておひたしにして（食べていたんですか）？

A…そうそう。食べた食べた。だから、ほったる（捨てる）ものは少なかったな。

私の父親は学校の先生しながら帰ってきてから畑をおこしたりみんなしとったわけや。先生しとったで戦争に行かんでよかつたわけやな。

そして、その頃は夜になると外に光が漏れたらあかんもんで電灯の笠の上に覆いをして（外に光が漏れないようにしていた）。

調…黒いものを？

A…そうそう。それとガラスは新聞か何かを墨で真っ黒に塗ったやつをガラス全部に貼って外に光が出てかんようにしとった覚えはある。夜は暗い日が多かったな。ろうそくの火で過ごすことも小学校入る前やったけど覚えとるでね。戦争を避けて疎開ができる人は良い方や。街中でそこから出でいけない人もおったわけけども、うちの場合は母親の実家があるところの一軒家を借りてそこへ疎開したわけやな。初めおったところなんかは戦争で四日市なんかはその辺一体丸焼け。だから、多度へ逃げ込んだから良かったんやけどね。戦争で今も覚えとんのは毎日の生活で、「空襲〜」って言うのと逃げて親戚の小屋の中に穴穂ってそこへ

戦時下における遊びと食事（辻井）

防空壕っていうんやけどその中へ逃げ込んだ覚えがある。

これは小さいながらに覚えとる。防空って「空襲警報発令」ってあるとみんな防空頭巾を被って穴の中に逃げ込む。

それと、紙が空からパラパラ降ってきて、それを「さわんな」って親から言われた覚えがある。それが、アメリカ軍が飛行機で、お前の国は負けたんやで降参しろっていう（警告やった）のやったんかな。小さな子はそんなこと知らんもんで走って追いかけて捕りにいった覚えがある。

その頃は、母親から聞いたことによると、アメリカ軍がいよいよ（日本に）入ってくる。この村にも入ってくるってことが考えられるので来たら竹やりで残った男衆で戦うと。女、子どもは多度山に逃げよってことになつとつたらしい。逃げる準備もしとつたん。竹やりで戦う覚悟は村の人はもとつた。元気な人は戦争に行つておらんどもんでね、おじいちゃんやおばあちゃん、子どもはみんな逃げるんや、多度の山に逃がすんやって聞いた覚えはある。

Bさん

調…戦時中はどこに住んでいらつしゃいましたか。

B…一九四五年八月十五日が太平洋戦争の終戦の日です。これを敗戦と、負けた戦いと呼んでおりました。津市の安濃町

の山村で、草生というおじさんの家に預けられておりました。小学校六年生の時です。そこで一年間生活しておりました。

調…疎開先ということですか。

B…疎開じゃなしにおじさんの家。おじさんが校長しておりましたのでその家に預けられておりました。そこで敗戦を迎えました。

調…何人家族でしたか。

B…おじさんとおばさんとおばあさんと四人暮らしでした。その子どもは女学校へ行っておりました。津市の女学校に。それで四人で暮らしておりました。

調…戦時中はどのような遊びをしていたか覚えていらっしゃいますか。

B…遊びというと、中々思い出させませんが、

調…戦争ごっことかごっこ遊びとか。

B…川で魚を捕ったり山へ行つてきのこを採ったり、遊びというよりもそういう暮らしをしておりましたね。

調…双六とかカルタとかそういうもので遊んでいましたか。

B…そうですね。トランプとか。トランプしてましたね。それから百人一首もしたような気もする。

調…おもちゃはありましたか。

B…おもちゃっていうのはおじさんの家にはありませんでした。だから、野菜を作ったり、池に遊びに行つて泳いだり、遊び道具はなかったですね。

調…遊びは誰としていたのですか。

B…友達ですね。学校友達ですね。

調…学校ではどういう遊びをしていたのですか。トランプとかですか。

B…学校では遊びというよりも、糸でいろんな形を作るあやとり、竹のぼり、それから百人一首、百人一首もしてましたね。あとは、今思い出すと、石を投げて距離を競うのもしてました。中々思い出せないね。なかったね遊びつて言つても。

調…そうですね。道具もそんなになかったですしね。遊びはそれくらいですかね。

B…そうやね。

調…では、次は食生活で、食べていたものは何ですか。

B…食べていたものは魚はなかったんでバッタとか。

調…バッタは捕まえて食べていたんですか。

B…そうそう。あるいは、野菜も、食べ物野菜が中心でね、ご飯は白米じゃなしに玄米。そのまま。玄米をふかしてね、おじさん（自分自身）が毎日三十回噛んで食べたのを

思い出しますね。

調…すいとんを食べていましたか。

B…あまり食べないね。すいとんは食べないね。主に野菜とパツタ、それからドジョウやね。

調…カエルは食べましたか。

B…カエルは食べなかつたけど、よく解剖したね。それから、今思い出すと、細長い蛇。蛇じゃない。蛇とよく似たのを臭かつたけど、よく食べさせられたね。友達に。焼いて。青大将のようなものを友達が食べているのを、よく食べさせられたね。嫌やつたね。

調…草は食べましたか。ヨモギとか

B…ヨモギはよく食べたね。主に野菜だね。

調…野菜は育てていたんですか。

B…そうそう。畑でね。

調…どんなものを育ててましたか。

B…トマト、なす、きゅうり、えんどう、いちご、かき。

Cさん

調…戦時中はどこに住んでいらつしましたか。

C…桑名郡多度町。津から富洲原、四日市、多度。四日市にね、海軍燃料廠つてね、軍隊の。ぶわーっつと燃えたんやわ。

戦時下における遊びと食事（辻井）

調…それは空襲ですか？

C…そうそう。夜中、燃えてね、それが離れとつたのに家まできて、これは危ないわつていうので多度へ疎開したの。

調…空襲一回あつてそれで多度に？

C…そうそう。それも怖かつたけど多度へ疎開したの。多度は田舎だから。疎開したら間もなしに、今度は桑名の大火事、B 29の焼夷弾で桑名が燃えてしもた。そしたらその時の燃えカスがぶわーっつと多度の田舎まで飛んできた。帯の模様があつたりとかね。

調…帯？

C…立派な織物の一部が飛んでくるの。燃えカスが。そんな怖い思いして、しまいにはもう多度はええかと思つたら多度はまだB 29か何か知らんけどいろいろ飛行機がくんのよ。

調…低空飛行で飛んでくる機関銃ですか？

C…そうそう。低空して、機銃掃射。ばばばばつ。怖くて防空壕へ入つてのぞいたら怖いのでぞくことはしなかつたけど、そんなことがあつたに。人間の顔が見えるんやで。向こうの。そのちよつと前に学校は行けないでしょ。危ないから。それで、お寺とかね神社にね、分団みたいにして学校があつたの。学校というか分校でみんな家の近くで。それで、警戒警報が鳴つてすぐに「空襲警報」。大急ぎで防

空頭巾被って、目立たないように。溝があつて、みんな溝に入つてそこから辺にあつた草をかぶせて。怖かつた。ほんとに怖かつたけど、(敵機が) 向こうにいったらやれやれと。何回かそんなことがあつた。

私らがみぞへ入つた時は運よく機銃掃射はなかつた。向こうへ行つたから良かった。もし、機銃掃射されてたらみんな死んでた。

分校へ行く時もみんなご飯がないよ。お弁当がね。弁当はさつまいも(ふかしたやつ)。ほんとに水の中にお米が少し入つとるおかゆさんというよりも水の中にお米が入つとる。大根とか煮干しとかが入つたものを持ってたりとか。哀れなもんでした。今の子に食べよ言うたらこんなもん食べれるかつて怒るやろな。

水はジュラルミンの水筒に入れていくんよ。

調：お米はそんなにいいですよね？

C：多度はね、おおばあちゃんの実家が多度の近くにあって、多度はそのおじいさんの家。おじいさんの家は鯉の養殖をしつとた。魚はたくさんもらえた。

調：では、魚は食べてたんですね。

C：うん。魚はな。あと、しじみとか。鯉とかフナとか。養殖しつとたもんで池にたくさんせりがあつてね、それを採つ

たりそこに生えている雑草であかざとかいう草を採つたりね。それから、おじいさん(しゅういちさん)が河原を開墾して麦を作つた。小麦、大麦。麦を使つてうどん作つたり、さつまいも、じゃがいも、大豆も作つた。いろいろ作つた。おじいさんは朝の三時に起きるんよ。おじいさんは桑名から富洲原、四日市の学校の校長しとるから、朝早くから。私は自転車に乗せてもらつて、畑の手伝いをしてた。連れてかれて、おじいさんは一生懸命耕してた。いろんな野菜も作つたな。だから、食料難の戦後は開墾畑でいろいろ作つたから助けられた。家の庭ではかぼちゃも作つた。かぼちゃ、きゅうり、すいか。すいかはそんなにたくさんできたわけではない。かぼちゃはたくさん作つてた。それを主食兼おかずみたいなもんやな。でも、お米は作れないから足りない。それは、もとさん(お母さん)のお姉さんの家が、隣の農家にお米をもらいに行つてた。着物とか帯を変えてくる。物々交換してくるの。何回もそうしてた。

調：野草は食べていましたか。ヨモギとかオオバコとか。

C：頻繁には食べないが、採つてきてゆでてすりつぶしてお餅にしてた。おじいさんの作つた小麦でうどんを作つていた。ビスケット作つたり。美味しい砂糖がたくさんないけ



ど、工夫してしていた。だから、さとうきびを作っていた。さとうきびはたくさん作っていてよくしゃぶっていた。甘いお汁を吸うのよ。夏はそれが美味しかった。冷蔵庫はないし。水を汲んできて冷やしとくとか。すいかもそこで冷やしていた。きゅうりも、トマトも。田舎にいて父が勤めながら農業をしてくれていたから野菜はそんなに困らなかった。お米はなかったけど。お米は物々交換するくらいで。

調…イナゴは食べていましたか？

C…イナゴは食べてましたよ。イナゴはフンを出すの。一晩おいてね。そうすると、夜の間にふんをするから中がきれいになる。それを炒って甘辛く炒めて食べるの。美味しかった。エビ食べるみたいなもの。蜂の子も食べた。

調…蜂の子は捕って食べてたんですか。

C…蜂の巣を捕って食べていた。変わった食べ物やと、ジュンサイ。

調…ジュンサイ？

C…長良川がそばにあつて、そこに水草みたいな蓮みたいなののでつるつるした中に芽が生えとるやつ。美味しいよ。それを一升瓶一杯に入れて、それを酢醬油で食べていた。

大麦を炒って粉にして塩と砂糖の汁を入れてはつたい粉

戦時下における遊びと食事（辻井）

にして食べるの。それも美味しいよ。そればかりだと嫌になるけど。それから、きなこもたくさん作ってました。それと、たけのこ。たけのこを採ってきて、食べて、竹の皮に梅干し入れて吸つてた。ガムではないけど、お菓子が少ないからそうやって食べたんだよ。なんでか、多度は心太が多かった。お店がそばにあつてよく食べに行っていた。

調…では次に、戦時中にしてた遊びは何ですか。

C…缶詰の缶に紐つけてポックリポックリ歩いてみたり、缶蹴りしたり。これは、人はしていたけど、私はあまりしなかった。でも、私はあまり遊べなかった。弟と妹のお世話をしとつたから。その子らに、にんじんとかで野菜スープ作ったりやぎの乳を飲ましたり、足りない時はおかゆさんで重湯を作つて飲ましたりしてさ。母が病気で寝込んでたから弟、妹の面倒を見ていた。

ばっかん、カードを地面にたたきつけて他のカードがめくれたらいいっていう遊び。百人一首もしていた。坊主めくりして。上品な使い方ではない。花札も。

調…そういつた遊びは誰と遊んでいましたか？

C…近所の人達と。でも、私はお参道してたから暇はなかった。勉強する暇もなかった。いつも、弟をおんぶしていた。妹のお世話もして、お掃除、洗濯もして。

調…家事もしてたんですね。

C…そう。ほとんどしていた。父も手伝ってくれていたけど、仕事で朝六時ぐらいの電車にのっていくから、ほとんど私が出たね。朝三時に起こされて畑に連れていかれて手伝ってましたわ。えらかった。今の人は幸せ。今の生活はありがたく思わなあかな。

調…遊ぶというよりはお世話や家事をしていることが多かったんですね。

C…そうです。弟を背中に負ぶってあったかくなってきたわと思つたらおつしこされてた。

あと、たまにけんけんばをしていた。周りによくしていた。

学校行って暇になるとあやとりしていた。

調…おもちやはそのなになかったんですか？

C…なわとびぐらい。おもちやはない。自分らで作らない。あつ、おてだま。中に石やら小豆を入れてやってたわ。あと、おはじき、ガラス玉で遊んでいた。遊び兼実用的なのは、手袋を編んだりな。編み物。簡単なシヨール。自給自足で。帽子、襟巻、靴下、腹巻も作っていた。

調…本は読んでいましたか。

C…本は好きでよく読んでいた。本は暇があると、お風呂が焚

き上がる間とかに。

調…どんな本を読んできましたか。

C…世界少女文学全集。それから、偉人伝。私は偉人伝好きやったな。でも、歴史小説はあまり好きではなかった。

今になって兄弟が多くてよかったって思うけど、当時はみんな面倒見なくてはならなかったから悲観的にみていた部分はあった。

調…雑誌は読んでいましたか。

C…小さい頃は本はとつていなかった。後になってから（終戦後）は読んでいたけども。

中学生になると、『中学時代』とかは読んでいた。

調…学校での遊びは何をしていましたか。

C…学校といえば、ゴム飛びやな。長いゴムを回して飛んだり、ゴムを張ってそれを飛び越えたり。あとは、ボールをポンポンつくぐらいかな。

調…ボールはあつたんですか？

C…小さいボールやけどな。でも。学校にはバレーボールはあつたよ。たくさんはないけど。

調…バレーボールしてたんですか。

C…あんまり好きやななかったからしてない。私は運動するところが苦手やったな。練習しとる暇もないし。

Dさん

調…戦時中はどこに住んでいらっしやいましたか。

D…四日市市新丁。

調…何人家族でしたか。

D…家族としては両親と都市の離れた姉が二人いて、四日市空襲のあたりでは兄が出征していなかったので、家族としては五人家族。

調…戦時中はどうな遊びをしていましたか。

D…ほとんど外で遊ぶことで、単純に鬼ごっこ、軍艦遊び、コマ回し。ゲームとかはない。トランプはあったけど、時々、カルタをしていた。イロハかるた。

調…戦争ごっこはしていましたか。

D…していましたね。それを軍艦遊びと言っていました。軍艦遊びは、三種類に分かれて、軍艦、飛行機、これには強いけど、これには負ける。鬼ごっこにかねて遊んだり。戦時中はほとんどそんなん。

調…双六はありましたか。

D…あったけど、それはお正月にしていた。正月だと、諏訪神社にサーカスがあったりとかね。いわゆる出店というやつですか。そういうのが楽しかったです。あとは、紙芝居がありました。楽しみはそんなもの。

### 戦時下における遊びと食事（辻井）

調…何人ぐらいで紙芝居を聞いていたんですか。

D…毎日ではなかった。三日に一回か週に一回くらい。紙芝居屋さん。一回見るのに代金払って、ちよつとした餡つとか駄菓子を買って、買った人が見れるんですね。自転車にのせてやってくる。大体二話か三話の話。『黄金バット』とかね。『怪人二十面相』とかね。そんなんをやってくれて、二〇人前後が集まって、お金のない人はただ見ですね。後ろの方から一緒に見る。

調…雑誌は読まれていましたか。

D…その頃は、雑誌は高価でしたけど、『キンダーブック』。いわゆる幼稚園向けの雑誌。一般では、本を月刊誌とか、当時は、週刊誌はなかったけども、本を買って読むことはあまりなかった。

調…木の実を採ったりイナゴを捕ったりとかはしていましたか。

D…それは、終戦。四日市が空襲で焼かれたので、疎開したんですね。今の川越に。イネ科ですから、疎開して食べるものは主食でさつまいも、主食であとは、時期的に夏休みですから、かぼちゃ、なすび、きゅうりとかな。田舎ですから、野菜は親戚が分けてくれた。でも、米は配給で結局、主食はさつまいも、おかずは近くの川で魚を捕ったり、エビを捕ったり。毎日のように。それは子どもの役目でした。そ

れをおかずにして、田んぼにはタニシがいてそれも食べたし、イナゴもいたから焼いたり佃煮にして食べてました。おかずはそんな形で、とにかく食べることに一生懸命。一日一日をどうやって生きていくか。そんな生活でしたね。親戚のところは、ほとんど一軒一軒内風呂を持っていましたけど、その風呂を使わしてもらってたけど、毎日ではなく、一日おきとかで使っていたのであまりお風呂には入れなかった。だから、夜になると近くの小川で風呂代わりに入っていた。

調…すいとんは食べていましたか。

D…私の食べていたすいとんは、上等なものではなかった。当時四日市では製油工場みたいな豆から油を搾っていく工場があつて、その圧縮した豆の搾りかすを手に入れて、うどん粉（小麦粉）もあまり手に入らなかったの、搾りかすを小麦粉のつなぎにして団子にして食べていた。味もななく、ぱさぱさ。でも、汁団子（すいとん）は食べれたらいい方。とにかく、味はどうでもよかった。食べてお腹が膨れたらいい。

調…ヨモギやオオバコのような野草は食べましたか。

D…ヨモギはヨモギ団子にして食べていた、オオバコは食べれるけど、あまり食べなかった。

調…野草は食べていたんですね。

D…さつまいものつる。あれも、皮をむいてね、みそ汁に入れたりして、さつまいものつるまで食べていました。

調…カエルは食べましたか。

D…カエルは食べなかったね。

調…家で何か育てられていたんですか。

D…川越で二か月くらい疎開して、塩浜の方で海軍燃料廠さんが建てた住宅が一般に貸し出されてそこが借りれてその庭でじゃがいもを結構作っていた覚えがあります。

調…そこで小麦は作っていましたか。

D…そんなんは作ってない。

調…ほかにさつまいも、かぼちゃは作っていましたか。

D…さつまいもは作ってました。小さな庭ですから。

Eさん

調…戦時中はどこに住んでいらっしやいましたか。

E…名古屋市の茶屋ヶ坂。

調…家族は何人いたんですか。

E…六人。兄が二人、姉が一人、弟一人、妹は一人。

調…戦時中はどんな遊びをしていましたか。

E…戦争中は遊ぶ道具がなかったですね。おもちゃを作る資材

が全部戦争の方にもってかれて。遊ぶといっても手作りかな。例えば、紙鉄砲。竹の筒で紙を詰め込んで中へ入れて空気が圧縮されてスポンって飛んでいく。

調…そういった遊びはどのくらいの人数で遊んでいたんですか。

E…結構、兄弟で遊ぶとか、友達同士で遊ぶとか。

結局、お金のかわらない遊びで、でも、コマはあった。

正月なんかのコマ。それと、竹馬。竹馬もよくやった。学年があがるとどんどん高くなっていく。一年生は竹の一節。二年生は二節とか。それから、缶詰の缶に紐つけて缶マツチ。これもよくやっていた。缶蹴り。鬼が一人おって名前を呼ぶと名前が封じ込められる。

調…鬼ごっこはしていましたか。

E…鬼ごっこはやったね。それから、電車ごっこ。縄で走る。

正月になるとカルタ、双六。

調…双六はあったんですね。

E…ありました。それと、お手玉、おはじきは姉たちがやっていた。だから、お金がかかるようなそういうものはなかった。それで私の住んでいたところは茶屋ヶ坂に砲車ほうの陣地があった。飛行機を打つ大砲を作る陣地が山の上にあった。軍隊が駐屯していた。私の家の近くをしょっちゅう軍隊が往來していた。物心ついたころには基地にいるみ

たいな感覚。森の中で練習をするもんだから。陣地から下へ降りてきて、民間人の近くで練習をしていた。そんな時代だった。意外にも子どもにはおうようで、陣地の中によく遊びに行った。夜、陣地で映写会があると、民間人の中に入れてくれた。入って映画を一緒に見た。

調…映画を見てたんですか？

E…うん。そういう時代。見張りが一人しかいないから、陣地に入っても何も言われなかった。近くに池があって、池で遊んでいた。ボート乗ったり。でも、戦争が激しくなると全部閉鎖されてしまった。出入りは怒られなかった。

調…先ほど、鬼ごっこをしていたとおっしゃってましたが、他にごっこ遊びはしていましたか。チャンバラごっことか。

E…チャンバラごっこはしていたね。騎馬戦。小学校一年生の時、騎馬戦よくしていたよ。学校で隣の組と。

調…戦争ごっこはされていましたが。

E…戦争ごっこっていつでもね。あんまりね。石投げはやっていたな。石投げ合戦。あと、泥遊び。池とかで。

調…その池で泳ぐことはしていましたか。

E…泳ぐことはあまりしなかった。もうひとつ面白いのがあるんだけど、茶屋ヶ坂の池で、土管が通じていて、その何百メートルある土管をくぐって

た。魚を網で受け取った。土管の中に魚がいるものだから。綺麗な水が流れているから。魚を捕るために土管をくぐっていた。これは、半分肝試しだね。真つ暗の中をくぐっていた。今思うと危なかったな。でも、当時は親は何も言わなかった。違う池では、兄が泳いでいた。遊びも、物がないからね。

調…そうですね。おもちゃなんてないですもんね。

E…そうだね。面白かったのは終戦後。田舎に疎開した。私の母が石薬師出身で父が庄野市出身。

山の花に疎開して農家を一軒借りたか買ったか忘れたけど、そこに疎開した。山の花の森の中に飛行機がたくさん隠れていた。近くに鈴鹿の航空隊があったでしょ。その秘密に基地があった。でも、アメリカは知ってたよ。その飛行機を見にいった。疎開先では飛行沖をよく見にいったり、近くに丘陵地帯の斜面に陸軍が駐屯していて陣地を作った。トンネルを掘って。要は本土決戦に備えて。この軍隊もおうような軍隊でよく遊びに行っていた。隊長が、人柄がよくて、子どもが兵舎に行っても何にも言われなかった。無線機で遊ばせてくれた。軍事基地の中に国民が住んでいた感じ。私からすると。そこら中に軍隊がいたから。夕方に行くと作業が終わって夕食が始まる。当時は

質素な物で芋をふかしたものを、じゃがいもをふかしたものとかが。そんなものを食べて終わり。一緒に食べさせてくれた。隊長がじゃがいもをくれて食べていた。

調…いもを食べることが多かったんですね。

E…そう。芋が多かったよ。

一番面白かったのは戦後。飛行機をほったらかして引き上げた。森の中に二機あった。一つは双発の大きな飛行機。もう一つは単発の戦闘機。森の中にエンジンとかいろんなもの隠してあった。兄たちはそこへよく行って、実際、兵器があった。拳銃とか。そういうものを実際にうった。実物で遊んだ。それから、実包が子どもたちにも出回った。私も持っていた。それを、土の中に埋めて薬きょうの火薬に火がついて、爆発させる。こういう遊びをしていた。もう一つ、森の中においていった飛行機に乗って遊んでいた。しばらくたつと、飛行機を解体した。戦争中はあまり遊びはなかったけど、戦後は面白かった。

調…次は食べ物についてなんですけど、芋をたべていらっしたとうかがいましたが、すいとんは食べていましたか。

E…食べた。

調…それは毎日のように食べていたんですか。

E…名古屋にいて、昭和十九年の十二月十三日に三菱の発動機

の爆撃があるんですよ。その時、家が燃えた。空襲にあう前は食べ物はまだよかった。どちらかというときひもじくはなかった。でも、その爆撃があつてからはひどかった。中村区へ避難しておじの家に。一晚であつという間になくなった。その頃からひどくて、すいとんっていう汁に粉で作っただんごが入っているだけだよ。それでも、食べればいい方だった。代用食とかわけわからんのあつたわ。一番食べれなかつたのは豆かす。

調…豆かす？

E…今は家畜の飼料になつているもの。その豆かすは配給があつた。あれは食べれなかつた。

調…ヨモギとかオオバコとかの草は食べていましたか。

E…そういう思い出は記憶にないね。土筆は食べたよ。あとは、いなご。代用食でさつまいもでしょ。一番芋類が多かつた。かぼちゃ。これは食べればいい方だったね。白いご飯なんて減多にない。ただ、名古屋の都市部の小学校は給食があつた。そこでは一切れのパン。パンは雑穀が入つていたけど、美味しかった。パンか、ご飯。初めのうちは白いご飯を食べてたけど、戦争が激しくなると、ご飯にいろんなものが入つていた。ネギとか。あとは、吸い物。ついても具はほとんど入つておらず、量も足りなかつた。親

戦時下における遊びと食事（辻井）

にとつては給食があることは助かつたと思うよ。

名古屋の中村区で六月ごろまでいた。中村区にも空襲があつて、夜寝れないことが辛かつた。夜中に空襲があつて、起こされて防空壕に入るといふ生活が続いたね。精神的にまいる。茶屋ヶ坂で爆撃を受けて中村区へ行つて六月の半ばごろまで。学校が閉鎖になつて両親がこれではだめだとして山の花へ縁故疎開した。田舎へ行くと空襲はない。しかし、機銃掃射があつた。直接打たれてないけど、機銃掃射はみた。どこから飛んでくるのか分からないのが怖かつた。だから、当時は制空権はアメリカがもつていたから爆音が聞こえてきたらどこかへ隠れろと言われていた。飛行機がきたらアメリカの飛行機だと思つて言われていた。田舎へ疎開したら食べ物意外とあつた。

調…畑はありましたか。

E…畑はなかつたけど、母方は農家で大きな田んぼを持つていて食料はあつた。援助を受けていた。だから、田舎にいる時はそこまでひもじくはなかつたけど、名古屋にいるときはひどかつた。父が時々、援助にいつていた。でも、取り締まりにあつてもらった食べ物を没収されたことがあつたらしい。大体はもつて帰つてきた。父は三菱発動機に勤めていたため、その工場がある茶屋ヶ坂に住んでいた。一番



上の兄は学徒動員で同じ工場で働いていた。二人とも運よく帰ってきた。父は年も年だから軍隊にはいっていかない。

(老人ホーム)

調…太平洋戦争中はどちらに住んでいましたか。

F…私は横浜です。もう結婚してました。一九歳で結婚したもので横浜にね、主人が勤めてましたで、会社ね。私もついでにきました。横浜でちょうど四月いっぱいまで住んでいました。田舎(三重県)に帰った。

G…戦争はどこにおったかな。鳥羽です。終わりはね。

H…私は十九年か知らんけど、東京へ行ったんやわ。結婚して東京で戦時中やったけども。そんなにえらくなかつたな。その時、主人が海軍やった。海軍の兵隊やった。東京で式挙げて、それから転動になって、静岡へ転動になったもんで。それこそ二か月くらいしかおりませんでした。二か月後に神戸の造船上へ転動になって、明石というところに行つて、家を借りて住んでおりました。それから、神戸の造船所へな、主人が行かなあかんもんで朝鮮人の方を氣遣つておりました。朝鮮人の方を一〇〇人くらい連れて半年くらい(住んでいた)。

明石というところでよく爆弾を落とされてあちこちに逃

げて助かつて。終戦になるまで明石におりました。終戦になって家(鈴鹿の)に帰りました。すつと帰りました。私だけな。主人は海軍なので残つておりました。

I…私はね、生まれも育ちも南玉垣。玉垣村新田というところ。昭和五年の十二月九日生まれで、戦争は三菱の整備です。戦機の(造るところ)、あれにおりました。終戦まで(三菱で戦機を造っていた)。―そこにお勤めになつていたのですか。三菱の整備工場ですわ。飛行機、航空機、戦闘機ね。全部で何万という工場があつたんですわ。そこから飛行機を持つて行つて私らの所わたつて、オッケーになつたら海軍に渡して南方へ持つて行つてもらつたんです。

J…愛知県の対馬。

調…家族は何人でしたか。

H…私は三人。

F…横浜でな、ちょうど四月いっぱい四か月横浜で暮らしましたけども。私と主人の二人だけ。

J…六人やな。

I…四人くらいだと思います。

調…太平洋戦争中はどのような遊びをしていましたか。

F…結婚しとると遊びなんてな(しない)。

H…映画は見に行きました。戦争の映画やな。白子に映画館が

二つありまして、神戸に二つあったんですわ。海軍の兵隊が泊まっついていて、私も何百回も観に行っただ。

調…本とか雑誌は読んでましたか。

全員…戦争中は読まれへんだな。

調…次は食事なんですけど、どのようなものを食べていましたか。

I…食事はね、ほとんどなかったもんでね。さつまいもとかね。

あわ、きび。さつまいものつるね。葉っぱとって、じく(も食べていた)。

F…じくな。戦争中はな(食べていた)。

G…覚えてないな。

調…お米はもうなかったですか。

H…あるところもあったかもしれないけど、私たちの所はなかったです。

F…そうやな。

H…私らはあまり不自由せずに食べていました。

J…終戦になってからは進駐軍が持ってきたチョコレートというのは口に入ったことない。(食べたことない)。

調…すいとんは食べてましたか。

H…うん。

I…食べたな。

戦時下における遊びと食事(辻井)

G…すいとんなんか覚ええないな。

J…だんご汁言うてた。

F…そうそう。汁団子言うてた。

調…それは毎日のように食べていたんですか。

H…毎日一食ぐらい食べよつたと思う。

F…まあな。戦争中はな。

H…また、汁団子って言うことも。

調…お米はなかったんですか。

H…そう。お米は少ないもんで。

F…少ない。配給配給言うてな。もらえへんもん、ようけな。

H…多少、家で作つとるでそんだけの生活ができた。

F…まあな、百姓の家はな、ええわな。

I…一種間にいっぺんくらいの配給でね。あとは自分で作った物で。さつまいもとかな。

H…きびとか、あわとか畑でさ(栽培していた)。きびとかあ

わ作つたわ。

I…私らも作つた。

H…えらかったけどな。

J…会社行つとつたもんでな。麦飯かそんなんやな。

調…ヨモギやオオバコといった野草や蛇やイナゴといった虫は食べてましたか。

I…イナゴは捕って食べました。

F…うーん。

H…そんなんは（食べてない）。

J…野草は食べやんだな。

調…Gさんは何を食べていましたか。

G…普通やったね。特別な食べ物とはあまりやらんからね。

H…そんなに不自由して見えなかったんやな。

調…家によって違うってことですね。

H…家で田んぼようけ作っとる家はな。

F…ええわな。

H…供出にな、出さんならんけども。

F…そんなもな。

I…強制的に何俵と一反作っとると割り当てがあつた。米をみ

んな供出してね。自分とこでさつまいも食べたり。

H…自分とこで食べやんとみんな供出なん。

F…みんなな。

I…みんな供出。

H…上手いことごまかしとる家はええけど、ようごまかさんだ。

でも、お米は自分とこの分は少しだけ隠しとつた。

（老人ホームの館長さん）…昔、イナゴ捕ってたわ。

I…今は薬で全滅しとるけど、昔は、ようけおりました。

調…他に何か育てていたものはありますか。

I…さつまいもとか、小麦とか。

H…麦。小麦。

F…そうやな。

J…そういう麦とか小麦かやったな。

I…小麦は作つたな。

H…うどんはよう食べた。

I…うどんは食べた。

調…かぼちゃとか育ててましたか。

H…作りましたね。さつまいもはようけ作りました。

I…さつまいもばっかですわ（作っていた）。畑は。それで大

阪の方から買いに来たんな。みんな闇列車に乗って大阪か

ら皆（三重まで）買いに来ましたわ。さつまいもだけとつ

てつた。

H…毎日さつまいも言うたらおばあさんに怒りよつた。

調…怒られたんですか。

H…そんな贅沢言わんときなつて。さつまいもも食べられやん

とな見える人もおんのに、毎日さつまいも言うてそんな文

句言わんときなつて。贅沢言うなつて。

I…玉垣の事ちよつと言うてもええですか。玉垣は養蚕とね、

豚をようけこうとつたんですよ。うちの家は四ちよう作つ

とってね。地主というか、今でいうたら自営開業ですね。野間と一色と自分(の家)と何百匹とこうてましたわ。それで、野間で豚殺ししとったやろ。血の海ですわ。川がね。豚のええところだけ取って、頭の所だけ川へ流した。置くところがないで。

調…Gさんは田んぼ作ってましたか。

G…やってない。

調…Jさんは小麦以外に何か作ってましたか。

J…米も。

調…周りの子供達がしていた遊びでもいいので何か遊びはありましたか。

H…コマ回し。しょうや(メンコ)も。

F…コマ回しな、ような。竹馬も。

H…竹馬もやったな。

J…コマ回し

H…竹馬は学校でようはやった。戦争中もね。

調…戦争ごっことかお医者さんごっこかはしてましたか。

F…してた。

I…してた。みんなやった。

H…子供の時にようしとった。

J…お米はようとらんね。

戦時下における遊びと食事(辻井)

H…とれんのか。今みたいに二〇俵もとれんわ。一反につき。(戦争中は)一反につき五六俵。今の半分や。三四俵の時もあつた。今は機械があるでようけ植えられるやろ。

調…戦時中は手作業でお米を作っていたのですか。  
F、H、I、J…うん。えらかつた。

Kさん

調…太平洋戦争はどこに住んでいましたか。

K…下箕田(三重県)。

調…何人家族でしたか。

K…六人。

調…戦時中は何を食べていましたか。

K…うどん、そうめん。

調…何か作っていましたか。

K…小麦。五段くらい田んぼをしていた。

調…戦時中はどのような遊びをしていましたか。

K…ボール。

#### 謝辞

本論文を作成するにあたり、インタビュー調査にご協力頂きました方々に心より感謝を申し上げます。また、戦時下で実際

に使用されていた貴重な衣料切符を提供していただきました祖父とその親戚の方にも感謝申し上げます。

最後に、今回の卒業論文作成にあたり、NHK（日本放送協会）さんから取材を受け、実際に戦争を体験した方が疎開していた場に出向き、そこで太平洋戦争中、実際に食べていた食べ物を探し、それを食べるというロケを行いました。そして、その模様が『#あちこちのすずさん』という番組名で全国に放送されました。この番組を通して多くの方々に太平洋戦争の暮らしを知ってもらうことができたと共に一端ではありますが本研究を知ってもらうことができたと思います。そのため、NHKさん、番組に関わって頂いた方々にも感謝を申し上げます。

#### 注

- (1) 阪東宗文『戦中・戦後の暮しの記録』暮しの手帖社、二〇一八年、二九九―三〇〇頁。
- (2) 国立公文書館HP。「公文書にみる日本のあゆみ」URL [http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s13\\_1938\\_03.html](http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s13_1938_03.html)。最終閲覧日二〇二〇年三月二十九日。
- (3) 笹山晴生・佐藤信・五味文彦・高埜利彦『詳説日本史』山川出版社、二〇一四年、三五五頁。
- (4) 国立公文書館HP。「公文書にみる日本のあゆみ」URL

[http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s14\\_1939\\_01.html](http://www.archives.go.jp/ayumi/kobetsu/s14_1939_01.html)。最終閲覧日二〇二〇年三月二十九日。

(5) 昭和館HP。URLは <https://www.showakan.go.jp/events/kikakuten/past/past20110723.html>。最終閲覧日二〇二〇年三月二十九日。

(6) 早乙女勝元『東京空襲下の生活日録―「銃後」が戦場化した10か月―』東京新聞、二〇一三年、二二―二三頁。

(7) 昭和館HP。URLは <https://www.showakan.go.jp/events/kikakuten/past/past20110723.html>。最終閲覧日二〇二〇年三月二十九日。

(8) 阪東宗文『戦中・戦後の暮しの記録』暮しの手帖社、二〇一八年、一一三頁。

(9) 斎藤美奈子『戦下のレシピ 太平洋戦争下の食を知る』岩波書店、二〇〇二年、八六―八七頁。

(10) 宮崎昭『食卓を変えた肉食』日本経済評論社、一九八七年、一〇八頁。

(11) 松阪市HP。URLは <https://www.city.matsusakamie.jp/site/matsusakausu/rekishu.html>。最終閲覧日二〇一九年十二月十五日。

(12) 牛銀本店HP。URLは <http://www.gyugin-honten.co.jp/main.html>。最終閲覧日二〇一九年十二月十五日。

- (13) 和田金H.P。URLは <http://e-wadakin.co.jp/aboutus/>。  
最終閲覧日二〇一九年十二月十五日。
- (14) 斎藤美奈子『戦下のレシピ 太平洋戦争下の食を知る』岩波書店、二〇〇二、八七頁。
- (15) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Dさん」。
- (16) 同上、「Aさん」。
- (17) 同上、「Cさん」。
- (18) 同上、「Dさん」。
- (19) 同上、「Eさん」「Iさん」。
- (20) 内山昭一『昆虫食入門』株式会社平凡社、二〇一二年、一五二頁。
- (21) 田村正人『日本の食用昆虫』『家屋害虫』、第二十五卷二号、二〇〇三年、一一二頁。
- (22) 前田・佐々木・鎌田・吉越『アミノ酸の加熱による変化(第1報)：リジンおよびスレオニンの加熱による変化』『日本食品工業学会誌』、第九卷第七号、一九六二年、二七九頁。
- (23) 河野・柴田「日本食からみる発酵食品の多様性と日本人の健康―肥満を中心に」『日本調理科学会誌』、第四十三卷二号、二〇一〇年、一三三頁。
- (24) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Aさん」。
- (25) 同上、「Hさん」「Fさん」。
- (26) 同上、「Cさん」。
- (27) 斎藤美奈子『戦下のレシピ 太平洋戦争下の食を知る』岩波書店、二〇〇二年、四七頁。
- (28) 同上、七一―七二頁。
- (29) 同上、一二八―一二九頁。
- (30) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Cさん」。
- (31) 阪東宗文『戦中・戦後の暮しの記録』暮しの手帖社、二〇一八年、九二、九四頁。
- (32) 根本歩美「子が語る父親の戦争―秋田の農村における記憶の継承―」『国際教養大学 アジア地域研究連携機構研究紀要』、第五卷、二〇一七年、五頁。
- (33) 本論文、資料1 「Eさん」。
- (34) 同上、「Aさん」。
- (35) 同上、「Bさん」。
- (36) 阪東宗文『戦争中の暮しの記録』暮しの手帖社、二〇一六年、一一四頁。
- (37) 同上、一〇九頁。
- (38) 同上、九四頁。
- (39) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Aさん」。
- (40) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Fさん」「Hさん」「Iさん」「Jさん」。

戦時下における遊びと食事(辻井)

- (41) 同上、「Bさん」。
- (42) 同上、「Cさん」。
- (43) 同上、「Dさん」
- (44) 阪東宗文『戦争中の暮しの記録』暮しの手帖社、二〇一六年、一四六―一四七頁。
- (45) 榊原 仁作（一九九〇）「MY BOOK 私の読書―小学校から大学まで」葉学図書、第三十五号、二六七―二六九頁。
- (46) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Dさん」。
- (47) 阪東宗文『戦中・戦後の暮しの記録』暮しの手帖社、二〇一八年、一一七頁。
- (48) 久松潜一・佐藤謙三『角川国語辞典』株式会社角川書店、一九八二年、八四七頁。
- (49) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Eさん」。
- (50) 同上、「Aさん」。
- (51) 同上、「Cさん」。
- (52) 同上、「Gさん」「Hさん」。
- (53) 阪東宗文『戦中・戦後の暮しの記録』暮しの手帖社、二〇一八年、一一〇頁。
- (54) 吉沢久子『あの頃のこと 吉沢久子、27歳。戦時下の日記』清流出版、二〇一二年、一八九頁。
- (55) 農林水産省HP。URLは <http://www.naff.go.jp/>
- keikaku/syokubunka/culture/rekishi.html。最終閲覧日二〇一九年十二月十六日。
- (56) 高橋昌紀（二〇一七）『データで見る太平洋戦争「日本の失敗」の真実』毎日新聞出版、二〇一七年、七九―八〇頁。
- (57) 同上、八一頁。
- (58) 菅麻記子・田畑貞寿「子どもの自然遊びと緑地に関する研究」『造園誌』、第四卷五号、一九八五年、二四〇頁。
- (59) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Dさん」。
- (60) 埼玉県公式HP。URLは <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0001/news/page/2017/1019-04.html>。最終閲覧日二〇一九年十二月十三日。
- (61) 学研教育出版『わたしたちの戦争体験3遊び・学校』学研教育出版、二〇一〇年、四五頁。
- (62) 同上、三二頁。
- (63) 早川タダノリ『愛国』の技法 神国日本の愛のかたち』株式会社青弓社、二〇一四年、九〇頁。
- (64) 塩路晶子「太平洋戦争期のハワイにおける幼稚園教育に関する研究」兵庫教大 教育実践学論集、十七、二〇一六年、一四七頁。
- (65) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Aさん」。

- (66) 同上、「Bさん」。
- (67) 同上、「Cさん」。
- (68) 同上、「Eさん」。
- (69) 一般財団法人日本玩具文化財HP。URLは[http://toy-culture.org/おもちゃとは？おもちゃの歴史](http://toy-culture.org/)。最終閲覧日二〇一九年十二月十六日。
- (70) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Aさん」。
- (71) 榎本歩美「子が語る父親の戦争―秋田の農村における記憶の継承―」国際教養大学 アジア地域研究連携機構研究紀要、(5)、二〇一七年、五頁。
- (72) 稲村光郎「昭和戦時下の資源回収―全体像とその仕組み―」『廃棄物学会研究発表講演論文集』、二〇〇七年
- (73) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Aさん」。
- (74) 同上、「Bさん」。
- (75) 同上、「Cさん」。
- (76) 同上、「Dさん」。
- (77) 同上、「Eさん」。
- (78) 竹内途夫『尋常小学校ものがたり』株式会社ベネッセコーポレーション、一九九五年、二五〇頁。
- (79) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Eさん」。
- (80) 同上、「Aさん」。

戦時下における遊びと食事（辻井）

- (81) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Cさん」。
- (82) 同上、「Aさん」。
- (83) 同上、「Bさん」。
- (84) 本論文、資料1 インタビュー調査、「Cさん」。
- (85) 「学校再開へ不安なお」朝日新聞、二〇二〇年三月二十五日。

（つじい あさか・四日市市役所）